

第2回 災害WG(東京南部・川崎巡検)開催報告

開催日時：平成16年5月7日、12:30～17:00

場所：東京都品川区、東京都世田谷区、川崎市高津区

参加者：8名

岩佐直人、上野将司、岡田憲治、小嶋茂人、中濃耕司、谷川正志
(委員以外2名)

巡検箇所：以下の3箇所地形図に概略位置を示す。

西品川：本年4月1日夕方、擁壁が崩れて住宅の一部が倒壊した工事現場

等々力溪谷：武蔵野台地の崖を形成する地質と湧水

蟹ヶ谷：平成元年8月1日、豪雨時の崖崩れによる住宅被災地



意見と課題（ ）

1) 住宅崩落現場の周辺に同様な状況の場所が多いことから地震時の被害が憂慮される。

当該地区のような緩斜面において、地震時に被害を受けやすい箇所は、縮尺 1:10,000 の詳細な地形図でも困難であり、専門家による現地調査が必要である。

2) 首都圏では段丘崖が発達するので急斜面に近接した住宅や開発中の宅地が多い。急斜面に近接した住宅に住む大半の人はリスクを承知して住んでいるとは思えない。

行政・住民・民間開発業者に対する何らかの働きかけが必要である。

巡検箇所の一部を写真で紹介

巡検地 2004 年 4 月の住宅崩落現場

山の手台地と目黒川沿いの低地との境界にあたる緩傾斜の斜面である。上部の住宅は盛土により建屋の敷地を広げている。土留め擁壁は下部コンクリート擁壁の上に大谷石の練積みを行っている。この擁壁直上に建屋が位置し、今回崩壊しなかった擁壁にも長期にわたって発生したと思われる変状が認められる。



住宅崩落直後の状況



擁壁と大谷石の練積みの崩壊



巡検当日のシートパイルによる山留め状況



巡検地 等々力渓谷

東京にもこのような自然があったのかと驚かされる。延長 500m の渓谷上は世田谷の住宅地で渓谷を環状 8 号道路が横断するが、静けさに包まれている。

渓谷の河床には東京層の粘土層が露出し、兩岸の谷壁には武蔵野れき層とローム層の分布が見られる。武蔵野れき層からは湧水があって兩岸の一部に湿地を形成し、湧水の多い部分は滝になっている。

兩岸の急斜面は段丘崖にあたり、首都圏ではこのような谷を埋めたり、段丘崖に接近して宅地開発が行われている。崖からの湧水処理がうまくいっていないと埋土や斜面は不安定化する。



巡検地 川崎市高津区蟹ヶ谷

平成元年 8 月 1 日未明、連続雨量 170mm の豪雨で段丘崖が表層崩壊し、住宅 1 戸が被災、3 人が生き埋めになった。この救助にあっていた消防隊員 3 人が 1 時間後の 2 次崩壊で生き埋めになり、合計 6 名の犠牲者を出した場所である。

急斜面下を造成して宅地化した場所で斜面崩壊が発生して住宅が被災したもので、周辺には同様な状況の場所が連続する。崩壊斜面にはのり砕工が施工され安全性が確保されているが、被災箇所には住宅が再建されている。

この付近は「古滝」と称される湧水のある谷間で、斜面は不安定な部分があったものと思われる。

毎日新聞 新聞定価(消費税込み)1ヶ月2,360円・1部売90円 (第3種郵便物認可)

関東で集中豪雨禍

がけ崩れで死者不明6人 川崎

消防隊員も巻き込む



七月三十一日深夜から一日にかけて関東地方は暴降した集中豪雨に襲われ、大雨災害発生中の川崎市高津区で一日朝、住宅裏のがけ崩れで一家三人が生き埋めとなった。救出作業中に再び土砂崩れが生じ、消防員十四人が巻き込まれ、消防員はいったん全員が救出されたが、うち三人が死する重傷者となった。不明三人の捜索は同日は打ち切られ、今朝から再開する。強い雨は一日続き、千歳線には一家五人の乗ったワンマン列車が土砂の下敷になり、子供三人は無事だったが両親が死した。このほか高校生二人が不明なり、同県茂原市では堤防決壊、住民約十人が消滅のボトとなり高層ビルを巻き込む豪雨の被害が続いている。

一日午前二時十五分ごろ、土砂のがけが崩れにわたって、川崎市高津区鶴ヶ谷(四八)の「こてドッ」という古い一軒家が崩れ、妻と長男が生き埋めとなった。救出作業中の四時二十分ごろ、再び土砂が崩れ、消防員十四人が巻き込まれた。救出作業は約一時間続いたが、うち三人が死する重傷者となった。不明三人の捜索は同日は打ち切られ、今朝から再開する。強い雨は一日続き、千歳線には一家五人の乗ったワンマン列車が土砂の下敷になり、子供三人は無事だったが両親が死した。このほか高校生二人が不明なり、同県茂原市では堤防決壊、住民約十人が消滅のボトとなり高層ビルを巻き込む豪雨の被害が続いている。

消防員十四人が生き埋めになった。全員救出されたが、三人が死し、十一人も重傷を負った。本署は一家三人の行方は不明で、雨のため新たな災害発生を恐れているため、同日午前四時十分、捜索はストップ。その後再開できず、午後五時にこの日の捜索打ち切りを決定した。二日午前八時から約六十分出て、

がけ崩れで生き埋め事故があった川崎市高津区の現場
=1日午前8時35分、毎日新聞社ヘリから写す

以上の巡検地以外にも移動中に、崖上の縁や崖下に建設された危険と思われる住宅やマンションを数多く確認した。崖を利用した地下マンションも散見され、湧水処理や地震時の対応がなされているのか不安に感じられた。